

(1)



在京古高同窓会会報 第66号

〒352-0031 新座市西堀2-17-37 在京古高同窓会事務局
FAX (042) 494-1598 URL: http://www.keyo.co.jp E-mail: sskkyj@gmail.com

発行責任: 大友 文博 編集長: 亀井 明 印刷: (株)ケーヨー

また会える日まで

会長 鹿野 軍勝



皆様、新年明けましておめでとうございます。また新しい年がやってきましたが、皆様は如何お過ごしでしょうか。私の方は、久しぶりの運動と買い物の際の荷物持ち、新聞・テレビ、そして本を読むの毎日です。何とも味気ない限りです。...

不機嫌で不安な時代にあつて唯一すっきりした気分になれたのは、テニスの大坂なおみ選手が全米で優勝した時です。...

選挙はどうなるのでしょうか。4年前はトランプさんの勝利という番狂わせに本当にびっくりしました。今回はバイデンさんが勝つと信じています。...

在京同窓会メモ

- ・会計年度は4月-翌3月、年会費は2,000円です。振り込み用紙が同封された方は会費納入をお願いします。
・会の健全運営のため、賛助金の協力をお願いします。
・次回会報第67号は2021年6月1日発行予定、原稿は常時受付。

ごあいさつ

古川高等学校長 澁谷 貴彦



在京古高同窓会のみなさま、お元気でいらっしゃいますでしょうか。GOTOトラベル事業が行われている中、感染拡大が懸念されている時期(11月下旬)にこの原稿を書いておられます。...

まもなく第3回の定期考査の時期となります(現在は、年間4回の定期考査を実施しています)が、学習面についてはごく一部の科目を除いては、何とか1年分の内容を進めることができそうです。また、行事については、対策館高校定期戦は中止のやむなきに至りましたが、古高祭や体育祭は縮小・統合した形ではありましたが、8月下旬に生徒主体で、計2日間の日程により実施することができました。...

そのような中で、この秋には陸上競技部、ソフトボール部、囲碁将棋部(囲碁)がそれぞれ東北大会に出場しました。この後も、剣道部・囲碁将棋部(将棋)が東北大会に、また囲碁将棋部(囲碁・将棋とも)が全国大会に出場する予定です。...

情報処理のエキスパート 完成図書・デジタル化総合サポート

電子納品作成支援 おまかせください!

導入から成果品まで専任スタッフがきめ細かく対応しバックアップいたします。

Table with 2 columns: Job Title and Number of Staff. Includes roles like CALS/ECインストラクター (10名), 電子ファイリング (6名), 文書情報管理士 (13名), etc.

代表取締役会長 早坂清吉 (昭和29年卒)

株式会社ケーヨー http://www.keyo.co.jp E-mail: info@keyo.co.jp 本社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 4-1-6

Advertisement for FORTEC MOTOR SPORTS OIL. Features an image of a FORTEC RACING HYPER oil can and text describing its performance for racing and sports cars.

本部同窓会事務局だより

新年のご挨拶

古川高校同窓会 会長 伊藤 貞嘉



在京古高同窓生の皆様、明けましておめでとうございませ...

新型コロナウイルスの流行が拡大して...

特に、コロナ患者を受け入れる病院は...

国は、このような状況に鑑み、コロナ対策による減収を何とか補助...

今回のコロナ禍は医療機関に限らず、多くの分野で甚大で深刻な影響...

現在ワクチンが開発されていますが、早く実用化されて...

危機に陥った時には、新たなアイデアやシステムが生まれる時...

さて、皆様の古川高等学校並びに同窓会に対するご支援に心から感謝いたします...

近況報告

事務局長 遠藤 直樹



在京古高同窓会の皆様、新年あけましておめでとうございませ...

さて古高の近況ですが、全国に発出された非常事態宣言に加え...

そんな中で、中止になった定期戦に代わる築高との練習試合が...

ます。例年2日間で開催していましたが、3密を避ける観点から...

どちらの行事も開催が危ぶまれる中、生徒たちが工夫を凝らし...

部活動は、9月以降に新人戦が各種目で行われました...

昨年のこの紙面でもご紹介、御礼申し上げますが、引き続き...

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響があり、部活動の活動に...

最後に申し上げますが、令和2年は古川高校同窓会創立110周年に...

令和3年同窓会総会は8月8日(日)に大崎市「グラント平成」にて開催予定...

令和2年度 在京同窓会議案と決議状況報告

令和2年度の総会は新型コロナウイルス感染危険のため中止とし、例年総会で議決しております活動報告、決算報告、活動計画案、予算案、及び役員選任案(緊急事態につき現体制で1年継続する案)を会員にお送りし、回答を頂いた方の過半数にて決議させていただくことにしております。

令和2年度 在京古高同窓会 議案書結果報告

Table with 4 columns: 議案 (Proposal), 賛成 (Favorable), 反対 (Opposition), 人数 (Number of members). It lists 5 proposals, all of which were approved (賛成) by 184 members.

<第1号議案> 平成31年度～令和元年度 活動報告

平成31年4月1日～令和2年3月31日

年月日	活動内容	場所
令和元年 5月11日(土)	在仙古高同窓会総会出席 (鹿野会長 佐々木事務局長 佐々木昭美幹事)	仙台市「ハレス宮城野」
5月26日(日)	会報「蛭雪63号」と総会案内発送(会員812名)	信陵会館
6月30日(土)	定時総会、懇親会 講演：伊藤貞嘉会長(本部同窓会) 演題「一期一会」	上野精養軒
7月13日(土)	築館高校同窓会東京支部総会出席(後藤 阿部幹事)	KKRホテル東京
8月11日(日)	本部同窓会総会出席(鹿野会長 大友副会長 佐々木事務局長)	大崎市「グランド平成」
10月24日(木) ～25日(金)	会員交流会「ふるさと探訪ツアー 2019」 (大崎耕土の世界農業遺産と大崎氏のルーツを辿って)	大崎市
12月15日(金)	会報「蛭雪64号」及び四校合同新年会案内の発送(会員788名)	信陵会館
令和2年 1月25日(土)	「第27回 旧古川市内四校関東同窓会 新年の集い」開催 (幹事校：古川学園高校関東支部) (古高 63名、黎明 44名、古工 36名、古学 50名) (四校来賓 2名、計195名出席)	上野精養軒
2月29日(土)	古高同窓会入会式及び「東京蛭雪賞」授与(大友副会長)	古川高校
3月1日(日)	古高卒業式中止	古川高校

<第3号議案> 令和2年度 活動計画案

令和2年4月1日～令和3年3月31日

年月日	活動内容	場所
令和2年 5月9日(土)	在仙古高同窓会総会出席：開催中止	仙台市「ハレス宮城野」
6月27日(土)	定時総会、懇親会：開催中止	信陵会館
7月1日(木)	会報「蛭雪65号」及び案内の発送(約800名)	上野精養軒
7月4日(土)	築館高校同窓会東京支部総会：開催中止	KKRホテル東京
8月8日(土)	本部同窓会総会出席(鹿野会長 曾根副会長 大友副会長)	大崎市「グランド平成」
11月初旬	江戸・東京探訪ツアー	都 内
12月19日(土)	会報「蛭雪66号」及び四校合同新年会案内の発送 (会員約800名)	信陵会館
令和3年 1月23日(土)	「第27回旧古川市内四校関東同窓会 新年の集い」開催 (幹事校:在京古高同窓会)	上野精養軒
2月29日(日)	古高同窓会入会式(大友副会長)	古川高校
3月1日(月)	古高卒業式並びに「東京蛭雪賞」授与	古川高校

- ◎役員・幹事会：信陵会館
 第1回 令和元年 5月26日(日) 14名
 (会報「蛭雪63号」・総会開催案内発送、他)
 第2回 令和元年10月 5日(土) 14名
 (在京、本部総会報告、ふるさと探訪ツアー関連、他)
 第3回 令和元年12月15日(日) 12名
 (会報「蛭雪64号」・新年会案内発送、他)
 第4回 令和2年 3月12日(木)⇒4月12日(日)延期、中止
 (四校新年会報告他は、メール等により連絡)
- ◎四校合同準備会：
 第1回 令和元年10月25日(金)
 第2回 令和元年11月22日(金)
 第3回 令和2年 1月17日(金)
 第4回 令和2年 2月22日(土)
 古高出席者：鹿野 曾根 児玉 佐々木(恭) 山中 阿部 菊地(広)

- ◎役員・幹事会：
 定例は年間4回、その他必要事案により関係役員・幹事会を開催
 第1回定例 5月26日開催：総会運営他
 第2回定例 10月13日開催：総会報告他
 第3回定例 12月15日開催：四校新年会準備他
 第4回定例 3月下旬開催：総会準備他
- ◎四校合同幹事会：
 四校合同新年会(R3.1.23)に向けて、10月下旬から1月下旬までの
 間に3～4回開催予定。来年度は在京古高同窓会が幹事校です。
 古高出席者：鹿野 曾根 児玉 佐々木(恭) 山中 阿部他

<第2・4号議案> 平成31年度～令和元年度決算及び令和2年度予算
<収入の部>

科目	決算額(円)	摘要	予算額(円)
年会費	494,000	245名 247口(平成30年度2口含む)	480,000
賛助金	477,000	169名	480,000
広告料	120,000	企業・個人広告	120,000
寄付・祝儀金	0		10,000
雑収入	60,659	総会他剰余金	10,000
収入計	1,151,659		1,100,000
前期繰越金	1,062,220		1,074,598
合計	2,213,879		2,174,598

<支出の部>

科目	決算額(円)	摘要	予算額(円)
会議費	21,94	信陵会館使用料、役員会資料他	20,000
図書印刷費	382,280	会報、案内状、封筒他	410,000
事務用品費	18,924	コピー・文具代他	20,000
事務所経費	20,000	信陵会館年間契約使用料他	20,000
通信費	242,233	郵送料、宅急便代他	320,000
慶弔費	179,229	東京蛭雪賞、祝儀、香典、生花他	100,000
旅費交通費	106,140	本部総会、卒業式出席旅費他	90,000
活動費	117,980	HPメンテナンス費、「母校をたずねる」他	90,000
雑費	51,201	年会費振込手数料他	70,000
予備費	0		1,034,598
支出計	1,139,281		2,174,598
次期繰越金	1,074,598		0
合計	2,213,879		2,174,598

<第5号議案> 現行役員1年継続選任案

今回は、現行の役員9名全員が任期満了となりますが、緊急事態
 でありますので、現行体制で1年継続させていただきたいことと
 し、現行役員9名の継続選任の承認をお願いします。

現行の役員は、以下のとおりです。

(任期)平成30年6月30日から令和3年定時総会日まで

会長	鹿野 軍勝	S36年卒
副会長	曾根 研一	S30年卒
副会長	児玉 隆行	S36年卒
副会長	大友 文博	S42年卒
副会長	笠間 邦彦	S46年卒
副会長 兼編集長	亀井 明	S55年卒
事務局長	佐々木 恭次	S38年卒
監事	大友 正行	S33年卒
監事	鈴木 博	S46年卒

現行の顧問は、以下のとおりです。

三浦 澄能 S24年卒 高橋 俊裕 S33年卒

現行の幹事は、以下のとおりです。

佐藤 清勝 S27年卒	渡辺 吉郎 S30年卒
後藤 雍正 S39年卒	菊地 務 S41年卒
佐々木昭美 S42年卒	山中 政法 S44年卒
今川 和彦 S46年卒	相澤 肯英 S47年卒
伊藤 健二 S48年卒	加藤 敏朗 S48年卒
阿部 眞 S52年卒	菅原 祐二 S56年卒
渡邊 博之 S61年卒	菊地 宏幸 H11年卒

会員による自由投稿

『門脇・春田両先輩に謝す』

昭34卒 渡邊 義之

新型コロナウイルス感染症拡大や豪雨による甚大な被害等で世情なにかと騒然とした状況ですが、在京同窓生の皆様におかれましては、お元氣でお過ごしでしょうか。小生会長在任中は心からなるご指導・ご支援を賜り、衷心より感謝申し上げます。

さて、在京古高同窓会の副会長として、多年に渡り、在京古高同窓会の発展に多大な貢献をされた門脇健様が昨年6月に逝去されました。このことは在京の皆様にとりましては大きな衝撃であると拝察致しますが、同時に、私にとりましてもお二人から会長時代に陰に陽に多面的なご厚情を賜り、



探訪ツアー 登米尋常小学校教室

一方ならぬお世話を頂きましたので、残念・無念であり、まさに痛恨の極みであります。ここに在京同窓会の「蛭雪」の紙面をお借りし、両先輩への謝意を表すると共に追悼の誠をささげる次第です。

はじめに、門脇健前在京副会長（以下先生）は、「水とぬくもりの人」だと私は思います。先生は大崎市の東大崎出身で、私や在京の鹿野会長と同じ、東大崎中の卒業生です。先生は古高の一回生で、古高卒業後、社会科の教員として東大崎中や宮沢中で教壇に立たれ、私はその時の教え子で、先生は、私が心から尊敬する恩師であり、私が社会科の教師になったのも先生のお蔭です。

先生は5、6年教員をされた後、向学の志止み難く、働きながら明治大学文学部に進学され、大学卒業後は東京の「日本水道新聞社」の仕事を従事し、長年にわたる社主として21世紀最大の課題である高度成長期の東京の「水問題」に取り組み、水道事業の理解と啓発に大いなる貢献をし、先生はまさに「水の人」と呼ぶに相応しい活躍をされたのであります。

一方で、先生は高度成長期の担い手として、故郷から多くの若者が上京して、東京方面に就職しましたが、東大崎出身の若者のため、「東大崎の会」を設立し、機関紙「東大崎」を60年以上の長きにわたり発行、年に一度以上の集いを開催し、節目の年には東大崎中の校歌を題名とした記念誌を発刊したのであります。先生のこの「ふるさと」への思いは、御自身がかつて単身上京した時に感じた望郷の念といふような心細さが原点にあったと推察しております。

この活動を通じて、先生は同郷の絆と古里の持つなんとも言えない

「ぬくもり」の大切さを具現化され、先生ご自身が「ぬくもりの人」そのものであったと思います。

これらの事業を遂行できたのは、先生の卓越した識見と綿密なる企画力、そして東北人特有の粘り強い素晴らしい実戦力があつたからだと私は思います。在京の「ふるさと探訪ツアー」も多年にわたる先生の実践が生み出した企画ではないかと推察しております。



探訪ツアー 奥さん、弟（喜代志）さんと 田尻ロマン館

私が中学時代以来、先生にお会いしたのは、私が母校の同窓会長として、四校友会や在京の同窓会に出席する機会を与えられてからで、50数年振りでした。久し振りにお会いした先生は、教え子の私に同窓会運営について、種々の助言を下さいました。

その一つは、同窓生に開かれた会にすべく、常に活動内容を公開し、絆強化のため「広報活動の充実」を図ること、2つ目は、縦の関係にある年代間の融和、それに異業種に対する理解、即ち「支部活動の充実」、それに3つ目は横の関係にある「同期会の充実」等に

努める様示唆して下さいました。これらのことを先生は「東大崎の会」や在京同窓会の活動を通して、具体的に実践されたのであります。

一度、先生の弟さんの喜代志先輩に連れられて、船橋の先生の御宅にお邪魔し、お酒と奥様の歌様のお料理をご馳走になりましたが、思い出話に花を咲かせましたが、先生は笑顔絶やせずとなく、ご自身の夢や生き様を生々と話して下さいました。先生を見ておると、青春や若さとは年齢ではないと確信した次第です。

先生は、温厚篤実なお人柄で、人間愛と郷土愛に満ちた人格者で、それ故に常に人を引き付ける魅力をお持ちの方で、逝去されてもなお、私の心の中に先生は生き続けておられます。先生は大変な愛妻家であり、「ふるさと探訪ツアー」には必ず奥様と一緒に参加されておりましたので、今もお二人仲睦まじいお姿が、目に浮かんでまいります。

先生の「ふるさとへの思い」は、前述の「東大崎の会」のところで述べましたのは、先生は遺言で先生の墓碑には「船形山」を入れると伺っておりますが、このことは先生の故郷への思いがいかに大きいか切実に伝わってまいります。そのうち先生のお墓から「南歌」が聞こえてくるのではと、私は勝手に思っております。先生どうか船形山同様、私共を見守って下さい。長い間本当に有難うございました。終わりに私自身先生の教え子であったことを誇りに思っております。

次に、春田紘輔前在京副会長（以下先輩）は、「柔道一直線と在京同窓会の生き字引」であると私は思っております。先輩は古川の出身で、先輩の父上は戦前に宮城県

加美農業高校や小牛田農林高校の校長を歴任した方で、先輩は教育一家で成長されたのであります。

加美町中心の「ふるさと探訪ツアー」の折、現加美農の校長室で、父上の写真を背景に、神妙な顔でカメラの前に立つ先輩の姿が今も鮮明に浮かんできます。先輩の功績で特筆すべき事柄の第一は、戦後、占領軍によって学校柔道が禁止されておりましたが、古高4回生である先輩は柔道の復活に全力を傾注し、その努力が結実し、昭和26年に古高柔道部が誕生し、その初代主将として柔道部の発展に努め、名実共に各大会で成果をあげたのであります。先輩は東北学院大に進学後柔道に専念され、宮城に「春田」ありと言われたと伺っております。



春田さんのエール 平成18年総会

また、先輩は母校の応援歌に柔道部の歌がないことを残念に思われ、同期生の鈴木芳郎先輩や伊藤祐造先輩の協力のもと、また東京混声合唱団の事務局長の曾根研一氏の尽力もあって、平成22年1月に念願かなって60年振りに柔道部の歌が完成し、そのCDを作成し、まさに先輩は「柔道一直線」の人生を歩んだのであります。

大学卒業後、先輩は旧国鉄に勤務され、国鉄民営化の時代に言葉では言い尽くせない苦労があったかと窺っております。

また、先輩は当時衆議院議長の要職にあった伊藤宗一郎大先輩が在京の同窓会長に就任するや、伊藤会長を支え、在京同窓会役員の中核として「八面六臂」の活躍をし、今日の在京同窓会の発展・振興に大いなる貢献をしたのは皆様周知のことです、先輩が「在京同窓会の生き字引」と言われる所以であります。先輩の在京同窓会の諸事業や東京雪賞の発案などに多大なる功績をあげたのであります。

先輩は、お酒が好きで、一見硬派で近付き難いように見えますが、実に繊細な心の持ち主で、心根は本当に優しく、細やかな気配りの出来る方でありました。私はいろんな場面で先輩と激論を交わしましたが、私は先輩の純粋に在京同窓会を思う気持ちも理解できましたし、その一途な生き方にも共感し、それ故に、私は春田先輩が大好きでした。

先輩からはご自分の経験則に基づいた同窓会の会計処理の有様について懇切・丁寧なご指導を賜り、今も感謝に耐えません。

今、静かに臉を閉じますと、在京同窓会の二次会場であった上野駅の居酒屋で、私の右肩に手をかけて「ホレ、ワタナベ飲め」と言いながら私の盃にお酒をついでくださっている在りし日のお姿が浮かんでまいります。

春田先輩、願わくば天空の星となり、私共後輩や母校の行く末を見守ってください。先輩からの数々のご厚情に感謝の意を表し、追悼の言葉と致します。

終わりに、私はこのようにお二人から賜りました数々の御指導の

ほんの一部しか表現できませんでしたが、私にとって、「国木田独歩」の「忘れえぬ人々」と同様、永遠に生き続けて行くと思っております。最後に送る言葉に、論語の孔子の中から「徳不孤・必有隣」の文言を呈示し、心からなる感謝の意を表すると共に、お二人のご冥福をお祈りいたします。

(前古高同窓会会長)

駅伝競走と伴走車

昭30卒 三塚 正志

駅伝競走は長距離走の中で数少ないチームプレーである。数十年前までは、監督・コーチ・同僚などが乗った各チームの伴走車が、選手の横に付いて選手にアドバイスをしていた。

最近、多くの駅伝競走では、交通事情から各チームの伴走車は廃止され、合同の伴走車になった。この結果、監督・コーチが自チームの選手に声を掛けるチャンスは少なくなった。

私はS40、50年代に弱いクラブチームの監督をしていた。当時は実業団と学生のチームが主力で、クラブチームは付録のようなものだった。

当時、住んでいた北九州市内には、多くの実業団チームがあり、市内の高校の長距離選手の多くが、卒業後に市内外の実業団(会社)に入ることを希望していたが、引退後のことを考えて私はこれに反対していた。

私は、当時としては「強い実業団チーム」を有し、多くのスポーツ選手が勤務していた八幡製鉄(株)に勤務していたが、研究所の所属のため昼勤務であった。一方現役時代は昼勤務のスポーツ選手

の多くは、現役を引退すると3交代勤務が多い工場勤務に替わることが多く、これを望まない人は退社せざるを得なかったからである。

さて当時の成人の日には、博多から筑豊を経て小倉までの朝日駅伝が開催されていた。この駅伝は、日本の3大駅伝の一つといわれ、旭化成・八幡製鉄など有力な実業団チームが参加し、沿道では大変な応援であった。

参加資格のレベルは高く、私が監督をしていたチームはそのレベルに達していなかった。私のチームを取材した朝日新聞の社会部記者によると、新聞社としては、この駅伝に博多・筑豊・北九州の社会人チームの参加を希望する、とのことであった(販売促進のため)。

この記者の配慮で、私のチームも朝日駅伝に参加できることになった。S50年の大会に初参加し、私のチームは3区の飯塚から繰上げスタートになった。小倉にゴールしても所要時間の集計が済まない順位が分からなかった。分からないながらもがらじりじりとしたものも

い憶い出である。私のチームは、その後毎日駅伝・日田中津駅伝などにも参加し、現在の市民ランナーチームの先輩であった。駅伝の伴走車は、私の青春の思い出である。

(付記)

私は大学時代から約50年間、69歳まで長距離を走り続け、S30、50年代は、住んでいた北九州市戸畑区の九州工大のトラックを走っていた。当時実業団と学生のチームが主力で、一般社会人のクラブチームは稀でした。このトラックで走っていた高校生の長距離部の選手や社会人の混合チームで各種の駅伝に出場し、私は年長ということでクラブチームの監督をして

人生の生きがいと社会貢献

昭42卒 澁谷 誠一

なりました。最も有名なF1やWRC(世界ラリー選手権)、ダカールラリー等皆さんがご存じのイベントがあります。過酷で激しい戦いの中で、排ガスをまき散らして何になるの?一般市民の方が思う環境で、もう無くても良いのではないかと思われる方も大勢おられると思います。今は、ハイブリッド車、電気自動車があれば良いと思われませんか? これまで日本の自動車メーカーは、これらのレースを通じて効率の良い車両を作り、世界に輸出し日本経済を支えてきたのは御承知の通りです。自動車業界に携わり生活されている方が国民の3割位にはなるかと思えます。日本車が評価されて売れてきたのは高い技術力があってからで、これらの技術は今後も多くの分野で生かされてゆくとおもいます。

2016年第56号雪に自由投稿に同期の太友君に勧められて「私に与えられた仕事について」ということで投稿させていただきます。それから5年経過しており、自分の仕事でどれだけ成果が上がり、自分の成長に繋がり、社会に貢献しているかを確認する機会を頂きましたことに感謝申し上げます。

今年の正月過ぎからコロナウイルス感染が広がり、経済の悪化、中小企業の倒産数が多くなり、生活不安もよぎる中で自分の会社が社会貢献しているかと思直する機会となりました。

車社会でのレースという世界で、レーシングオイルを開発し30年に社会に認められ、役立っているか、その価値があるかと問われる年に

10年前であれば0W-20のオイルを使ったらエンジンが壊れてしまうという時代でした。今は0W-20の粘度が当たり前で、燃費が1l当たり20km以上走るのが当たり前の時代です。時速200kmで走るレースの世界でも0W-20、0W-30という低粘度が主流になりつつあります。オイルの世界も急速な時代の流れに対応しなければ生き残れない環境です。一般車を所有されている方ほとんどは、「オイルは入っていれば良い」と思う方がほとんどだと思います。



第13回 天草パールラインマラソン全国大会 S60.3.10

いますが、オイルは生き物です。エンジンが要求する走りになり、オイルが快適な走りになります。とても大切なことですのでお伝えします。



2020.7 茂木ドライバー紹介

当社は生き残り、高い評価を得られるように先端を行く開発に携わり、7年〜8年前から大手メーカーの先を行く製品を市場に送りだしてレースの世界で優勝、チャンピオンとなる実績を作ってきました。

レースを通じて高性能オイルを作る高い技術開発に携わる喜びを得ることが出来、今後もレーシングオイルや高性能省燃費オイルを海外にも輸出し、日本の中小企業でも日本のWAZA(技)を示し、made in JAPANの真価を広めてゆきたいと思っています。

日本は少子高齢化に向かって激走しておりますが、海外輸出をしてその利益を持ち帰り、日本が生き残っていかねばならないとトヨタ自動車の豊田章夫社長や日本電産の永守会長等のTOP企業が、事ある毎にメディアを通じて話しております。零細企業であります当社も感銘し、実現したいと願っております。30年オイルの仕事に携わって、先端技術を開発し、物作りが出来ることの喜びを感じ、人生を堪能しており、オイルの職人と実感できる年になり、FORTEレーシングオイルのブランド力をUPし、海外に輸出し、多くの方々には喜ばれる仕事を実現したいと大きな夢を持っており、(フオルテック(株)代表取締役)

国重文「木造千手観音坐像」の安置されていた小松寺について

昭和42卒 大友 文博

企業を退職後、ふるさと田尻の実家の管理を始めてから数年が経ち、すっかり故郷の魅力に魅せられ、園芸や郷土史、写真撮影など

の趣味の生活を楽しんでおります。昨年10月の「ふるさと探訪ツアー」では松山のふるさと歴史館に仮展示されていた国の重要文化財の「木造千手観音坐像」を見学しましたが、大崎市田尻総合支所に温湿度管理や防火防犯機能を持つ収蔵庫が完成し、台座に座り、光背を持つこの仏像全体と脇侍の不動明王像と毘沙門天像の三体が10月29日から一般公開されました。この仏像は震災で被災し、京都で修理する過程でその価値が見直されたのですが、中尊寺金色堂の奥州藤原氏三代に関わる諸像、とりわけ二代基衡のために造られた一群と類似していると鑑定されています。

とても品位があり、優雅で、二重まぶたの目や後ろ髪をたわませた結髪は非常に珍しく、公開記念式典にいられた文化庁の文化財調査官は国宝級のものであり、中尊寺の仏像と一緒に制作されたのではなかるうかと話していました。この坐像が安置されていた小松寺は、近世に仙台藩二代伊達忠宗が再興し、忠宗は2回、7代重村が1回寺を訪問しておりますが、明治になり、廃藩置県で伊達藩の寺録が無くなり廃寺となりました。

小松寺は、980年代の「日本往生極楽記」や120年代の「今昔物語集」の説話集に「新田郡小松寺」として寺院名が登場します。松寺一として寺院名が登場しますが、寺院に関する史料は安永4年(1775)の仙台藩の「風土記御用書出」の添書である「小松寺開山之事」だけであり、これに記載の江戸時代前の記述は史実としては認められていません。何故、古川小野や高清水と境界を接する田尻でも奥まった北小松にこれほど素晴らしい仏像があったのか、安置されていた小松寺と

は一体いつ創建され、坐像は誰が何のために作られたのかについてはまだ解明されていません。私は、小学1年までこの小松寺から400mの所に住んでおりましたので、退職後の田舎暮らしの楽しみとして、専門外ですが「小松寺開山之事」に記載の伝説や古代史などの文献を読み、現代の歴史情報を加味しながら、この謎解きに挑戦しています。

史実として証明できる文献や考古学的調査もまだありませんが、状況証拠的なものを積み上げ、推論し、古高で日本史を教えていただいた佐々木茂植先生(今年2月逝去)にご覧いただき、田尻郷土史研究会で発表いただき、お言葉頂きありがとうございました。

先生は古川市史や涌谷町史の奈良・平安時代を執筆された古代史の専門家です。今回はその要点を記載します。

●小松寺はそもそも何のためにいつ頃創建されたのか
多賀城(724年)を取り巻く天平の五柵(玉造柵、色麻柵、新田柵、牡鹿柵、〇〇柵)の一つ新田柵(737年・続日本記)が、発掘調査の結果、田尻八幡・大嶺地区に存在することが確認される現在では、小松寺は「新田柵」の守護寺院としてほぼ同時期(740年前後)に建立されたと考えられます。

柵跡と比定され、近くには8世紀前半の木戸瓦窯跡(国指定遺跡)もあり、また小松寺跡から菜切谷系の鎧瓦破片と平瓦が発見されており、「新田郡小松寺」はこの新田柵の守護寺院として創建されたと考えられます。

これまでは大正15年の遠田郡誌に記載された宇多天皇(887-897)が東夷平定記念として、光孝天皇(小松の帝と呼ばれた)の安寧を願い、建立したという説や「小松寺開山之事」に記載の延喜年間(901-923)の勅願寺という説がありましたが、これをはるかに遡り、創建されたと考えられます。

●木造千手観音坐像
誰が何のために作らせたのか

木造千手観音坐像は、「形状・法量」「構造・品質」「作風」など専門家の鑑定で、藤原清衡(1056-1128)あるいは基衡(1105-1157)の時代の作と鑑定されていますが、この仏像を制作するために、京都とのつながりや相応の財力と強い熱意がなければ不可能であります。

当時としては、藤原清衡あるいは基衡しか考えられませんが、その目的は前九年の役(1051-1062年)で賊軍として殺された実父や母方の安部氏の菩提寺として一族の安部良照(官照)が大僧正をしていた小松寺を再興し、千手観音坐像を安置したのではないかと考えられます。

当時、岩手の奥六郡から宮城北部まで勢力圏にしていた俘囚長の安部頼時、貞任を多賀国府軍の源頼義、義家が、出羽の国の清原氏の加勢を得て、安倍氏の拠点であった小松柵・衣川柵・鳥海柵を落とす小松柵の戦いで貞任を討ち、安倍氏は滅亡しました(前九年の役)。



清衡の母は安倍頼時の娘ですが、父の藤原経清は在庁官人で、巨理地方を領地にしていましたが、安部氏側につき惨殺されています。清衡の母はその後、敵将清原氏の嫡男武貞に再嫁し、家衡を産み、清衡は養子となり、生き延びました。

清原氏は出羽、陸奥国の広大な領地を得るようになりましたが、清原氏で内紛が起り（後三年の役・1083-1087）、清衡の妻も家衡に殺されますが、源義家の支援で家衡は打たれ、最後は清衡が清原氏の領地を継ぐことになります。

平泉の黄金文化を築いた藤原清衡の若い半生は悲惨であり、蝦夷の血も持つ清衡は自らを「俘囚の上頭」と称し、官軍と蝦夷を分け隔てることなく往生を願う気持ち強く、これが平泉に新しい仏国土を建設させたといわれています。

「小松寺開山之事」では安部貞任の叔父良照が小松寺の大僧正であったとあり、「吾妻鑑」では境講師官照とあり、貞任とは兄弟とされていますが、どちらの古典でも僧職です。↓下系図参照

境講師とは、安倍氏と多賀国府の領地の境にある寺院の長を意味し、安部氏の実質勢力圏から見ると小松寺はまさにその境界にあります。「陸奥語記」には小松柵（擬定地・一関萩荘谷起島）を僧職である良照が甥の安部宗任とともに守備していたとあります。

また安部一族の本拠地衣川川西地区に良照の居館の小松館があります。萩荘や川西地区には「小松」の地名がありません。これは「小松」は現地の地名ではなく、良照が日本往生極楽記などの説話に登場する都にも知られた小松寺の大僧正をしていたので「小松殿」と呼ば

れ、彼が守備する柵や館も「小松」の名称がついたのではないかと考えられます。

清衡の父藤原経清や母方の安倍氏は、朝廷に謀反を起こした賊軍であり、その遺体は京都で晒されたりし、親族の墓はバラバラであり、菩提寺的な寺院もありません。

清衡は朝廷、貴族と良好な関係を築いていますが、京都との往来が多い中尊寺など平泉周辺では賊軍として、滅亡した親族を表立って祀ることはできず、親族の墓や寺院がないという状況です。これは清衡にとっては耐えられず、晩年の清衡あるいは基衡が、親族の菩提寺として一族が大僧正をしていた小松寺を再興し、千手観音坐像を安置した可能性が高いと考えられます。

角田市の高蔵寺阿弥陀堂や阿弥陀如来坐像は、国の重要文化財に指定されており、三代秀衡が制作に関与したと考えられています。秀衡の母は安倍宗任の娘といわれます。

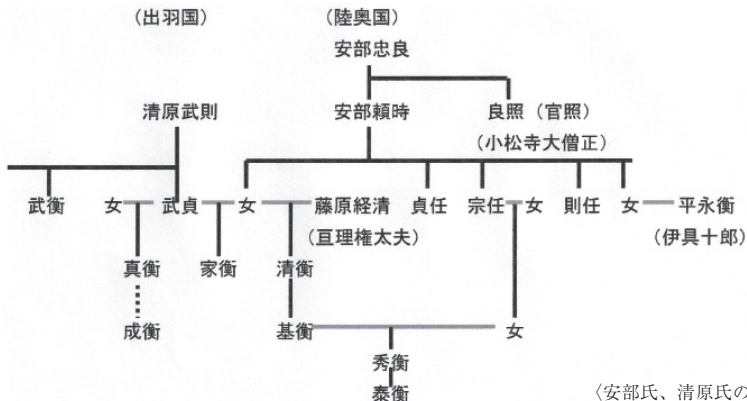
巨理郡は在庁官人の清衡の父藤原経清、伊具郡は同じく平永衡の領地ですが、彼らの妻は姉妹で、安倍頼時の娘ですが、平永衡も疑いを懸けられ、源頼義に殺されています。

想像をたくましくすれば、秀衡は祖父や父が小松寺を再興しており、残された巨理・伊具郡に寺院を作り、巨大な仏像を安置することで前九年の役で亡くなった親族の供養が完成すると考えたという見方はできないでしょうか。

清衡や基衡が小松寺を再興したという記録は残っていませんが、小松寺の起源は新田柵の守護寺院で鎮護国家の寺院(官寺)ですので、老朽化・破損した官寺としての小松寺の補修や再興を目的としてい

るならば、当然公式の記録を作り朝廷に報告するはずと思われれます。このように考えると清衡、基衡の小松寺の再興、木造千手観音坐像設置の目的は、朝敵として滅亡した一族安倍氏を祀る菩提寺として密かに再興したもので、逆に記録が全くないのが自然とも考えられます。文献に限られており、また小松寺の発掘もなされていませんので、これからの調査などに期待しています。

〈安部氏、清原氏の系図〉



「寺田正夫の愛と人生の開拓記」(寺田正夫シリーズ第3作目) 著者 昭30年卒 寺井 稔



右記書籍が三省堂から出版されたので紹介します。1作目の「その日から」は、戦中戦後の混乱期を一人の少年の目を通して書いた体験記です。自費出版文化賞に入選しました。

第2作目の同名書籍は、中学の学校行事や農業と季節、天候の関係を書き、手製の書籍にしました(非売品)。

3作目の本書は、高校へ入学し、卒業する間の友人との交流、そして女子高校生・只野明子とその家族との交流を通して、勉学と人生について思考法を教えられ、成長していく様子が書かれています。いろいろな工夫をし、努力が実って卒業時には目標の大学に合格した。明子と家族は正夫に「お目出とうございます。これからの長い人生のスタートラインに立つことができましたね」と言って励ました。

最近の高校生は、電子機器に頼る生活が中心になっていと言われています。著者は、もつと情報量の多い書籍を読んで思考能力を高めて欲しいと言っています。

〈付記〉 本書は出版元…三省堂書店。A5版(2200円)、1ページ2段組の700頁余の長編の恋愛小説です、本の装丁は古高の旧校舎です。

コロナ禍の中、家でゆっくり読書してみるのもよろしいかもしれませんね。(事務局 佐々木記) **ギネス認定!** 小学館児童向け漫画雑誌「月間コロコロコミック」表紙デザイン

昭40年卒佐々木多利爾(たりじ)氏(鳴子出身)のデザインが「同一雑誌の表紙を最も長く担当した」としてギネス世界記録に認定されました。認定記録は7月15日現在で、34年と213日。

同誌は1977年に創刊し、デザイン一佐々木さんは1986年1月号から担当している。(読売新聞朝刊・11月19日朝刊31面記載)

彼は在校時美術部で故穴戸章先生の薫陶を受けている。



「お知らせ」 例年、1月下旬に開催の旧古川市内四校関東同窓会「新年の集い」は、コロナウィルスが沈静化しておらず、中止のこととなりましたのでお知らせいたします。

会員通信

令和2年度総会返信ハガキ通信欄から

●91歳になりましたが、人生を楽しんでおります。(S22松本慶蔵)

●コロナウイルス感染防止で自粛、塾居を続けた結果、筋肉の退化が著しく、慌てて室内体操/ウォーキングマシンでリハビリをして回復を計っています。災い転じてアフターコロナでは、効率的な新時代へ転換を。(S24齋藤 馨)

●老人ホーム暮らしに慣れてはきたが、コロナ対策から外出・面談の規制で、脚力低下の一途。病妻介助を含め、前向きな終活に頭を使うのもまた楽し、か。(S24三浦澄能)

●八十路も半ばを過ぎ、何をしても老いを感じる今日この頃ですが、草花づくりに精を出しなどしながら、先ずは元気に日々を過しております。(S27氏家明朗)

●通院が仕事みたいで何とか元気に暮らしています。日々体力の衰えを感じながら。(S29長浦 稠)

●「コロナしやれ！やつこどいっばい、あつからしや」わがっぺが、わがっかや？わがります。(S30門脇喜代志)

●年が年なので、コロナにかからないうように細心の注意をしております。伝統の毎年の総会が初めて開催されないのも致し方ありません。次会を楽しみにしております。(S30横山 武)

●40歳頃、米国滞在時に習ったテニスを退職後も気の合う仲間とプレーしていることもあり元気です。ただ、その世話になった米国が、今おかしくなり心配。(S32門間俊二)

●傘寿到達、体力減退、呆け進行。年間徘徊距離3,000kmがやっとなり、情けなし。(S33渡邊紘也)

●火・木・土、週3日(4時間/1日)透析の生活をしています。(S34青沼行雄)

●第二・三の人生、コロナのお陰でどことくストップをくい、終活活動に専念できるなど強がりをつけていますが、なかなか進みません。(S35我妻一美)

●令和2年3月に肺ガンの診断が出て、抗ガン剤治療のため、4月より入院退院しています。大腸と胃は手術しましたが、今回は出来ません。元気だけはあります。(S36江崎 肇)

●趣味で60年続けてきた男性合唱が活動休止——辛い思いしております。(S36吉田二郎)

●今年の3月末会社を退職し、若し人達に委ねました。菊造り、3本立て、7本立ての趣味35年目です。北アルプスへの登山もコロナが落ちていたら再開しようと思っております。健康第一ですネ!!(S37磯谷 孝)

●6月1日から大崎市民病院岩出山分院で診療を手伝っています。引越しの片づけには当分かかりそうです。誠意をもって診療にあたり、市民の健康増進に貢献したいと思っております。(S38阿部重人)

●行政区の区長を今年4月より二年間就任することになりました。新型コロナウィルス感染で行事は全て中止となりましたが、責任の重さに負けずにがんばっております。(S39笹原誠一)

●リタイアして5年、現在は小学生の通学路見守り(スクールガード)、自治会カラオケ部、月4回のファミマ出店等々、73才の老体ながらがんばっております。野球部が元ばって!!(S40高橋 博)

●今のところ、葉や病院の世話にならず、何とか元気で暮らしています。趣味の唄とバドミントンと晩酌でコロナ危機を乗り越えたいと思っております。(S41高橋秀之)

●中小企業診断士として中小企業の事業承継を支援しています。(S42佐々木文安)

●7月2日に当社FORTECオイルをフランス大使館公用車用に初納入しました。今後も海外との取引を広めて行きます。(S42澁谷誠一)

●地元で所属しているサークル活動がすべて休止しています。コロナの影響が一日も早く払拭すればいいと思う昨今です。(S43佐々木 博)

●「コロナの感染」の対応相当問題あり、しばらく時間かかりそうです。色々の情報をみてみると、厚労省のトップの発言、組織のあり方に課題があるようです。何とか周りの連携をとり、うまく終息できるように祈っております。(S44相澤次雄)

●ロシア語を学んで5年、ウラル山脈を散策したいと思っています。「チバニアン」関係資料、必要とあらば用意します。43年度生徒会誌、後藤明(本人)の記事を入手したいのです。(ベルセウス座流星群についてです)。(S44岡村 明)

●山内克夫(内)旧姓大曾根まり子、亡父大曾根富見夫は古高、旧古女で29年間数学の教師をしました。亡き兄(秀憲)は会長の鹿野氏と古高時代、同級でした。父と兄からいつも会長のエピソードを聞いており楽しみにしています。郷土の発展を願っています。(S44山内克夫)

●引続き京都大学特任教授として風力発電の普及促進に、内外を走り回っています。(S45荒川忠一)

●どこにいても心はいつも古高(同窓)生!(S46今川和彦)

●新型コロナで在宅勤務が多くなり、更に大学の非常勤も遠隔授業になりました。パソコンの前に居ることが長くなり眼が疲れます。(S46笠間邦彦)

●7月下旬ようやく1件の演奏(4ヶ月ぶり)の仕事があります。あとはオンラインでレッスンをしてほしいです。(S47工藤春彦)

●コロナ禍の東京に毎日通勤しております。先日、自費(10,000円)でコロナの抗体検査を受けました。陰性でホッとしました。(S47松木秀一)

●今年、バイオニア(株)の社長を退任しました。(S51森谷浩一)

●進路実績に驕りが見えます。古川黎明と肩を並べることなく独自性、古高らしさをもって、澁谷校長先生には強い意志をもって運営し、次の方々に繋げて欲しいと願っております。(S52高橋忠悦)

●新型コロナは、たくさんの方を変えて来ています。柔軟に、と考える、仕事をしています。(S52平野幸三)

●コロナでテレワークが多くなり、体重が増加しています。運動を取り入れなければと思うこの頃。(S55齋藤秀範)

●一日も早くこの未曾有の災厄が克服されることを祈りつつ、また同窓会の皆様にお会い出来ますこと、楽しみにしております。(S57赤間英一)

心よりご冥福をお祈りいたします

- 氏家 明朗氏 (昭27卒) 令和2年10月6日
- 春田 紘輔氏 (昭27卒) 令和2年6月7日
- 渡邊 道雄氏 (昭28卒) 令和元年9月5日
- 二階堂幸男氏 (昭30卒) 令和2年3月13日
- 梅沢 和男氏 (昭35卒) 令和元年7月22日
- 藤井 欣三氏 (昭41卒) 令和2年9月5日
- 鈴木 英伸氏 (昭42卒) 平成30年7月3日
- 佐々木正行氏 (昭47卒) 令和2年1月4日

編集後記

コロナウイルスの影響で様々な対応を迫られお忙しい中原稿ありがとうございました。(大友)

複雑な税務問題の相談に応じます

税理士鈴木博事務所

税理士 **鈴木 博** (昭和46年卒)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-5-1 第37森ビル1階 (虎ノ門合同事務所)

TEL 03 (3433) 0481 FAX 03 (3433) 0493
E-mail : hiro0917@toranomom-ssta.com

BIPは、企業様と共に事業開発・経営改善に取り組み、第2・第3の成長を創るパートナー

BIP Business Integration Partners

BIP株式会社 取締役会長 佐々木 昭美

昭和42年卒

東京本社 東京都中央区日本橋1丁目2-10 東洋ビル6F
TEL: 03-5542-1417 FAX: 03-5542-1418

東北事業所 宮城県仙台市青葉区中央1-2-3 仙台マークワン19F
TEL: 022-208-9322

E-mail: info@bi-p.co.jp URL: http://www.bi-p.co.jp